

GRIPS 国内同窓会報

発行日:2025 年 3 月12日 発行者:政策研究大学院大学国内同窓会 発行責任者:稲葉尚子

事務局連絡先:〒106-8677 東京都港区六本木 7-22-1 TEL 03-6439-6048 E-mail alumni-ml@grips.ac.jp

GRIPS 恩師インタビュー第8回

橋本久義先生～ものづくり企業と留学生を支援して



橋本久義先生プロフィール

1969 年 東京大学工学部精密機械工学科卒業、同年 通商産業省入省、1978～81 年 西ドイツデュッセルドルフにJETRO 調査員として駐在、1987 年 機械情報産業局鋳鍛造品課長、1989 年 中小企業庁技術課長、1991 年 立地公害局立地指導課長、1993 年 工業技術院総括研究開発官、1994 年 埼玉大学 教授(政策科学研究科)、1997 年 政策研究大学院大学教授、2011 年 政策科学研究大学院大学名誉教授、

主要な著作・論文等

「中小企業が滅びれば日本が滅びる」、「町工場こそ日本の宝」ほか多数。

CONTENTS

GRIPS 恩師インタビュー第8回…	1
社会科見学会（埼玉県産業技術総合センター視察）報告…	5
修了生室が設置されました…	5
2024年度同窓会開催報告…	6
同窓会各支部の開催報告…	6
修了生紹介（広島県総務局長 杉山亮一さん）…	7
母校の動き・大学からのご案内	8

（増田）

今日は、よろしくお願いいたします。
先生は福井生まれの東京育ちだそうですね。

（橋本先生）

私は終戦の年に父親の疎開先の福井で生まれました。5月に生まれて8月に終戦になり父の勤務先の京都に戻ったので福井にいたのは3カ月ちょいくらいでした。

京都にしばらくいて、その後は、大阪、佐賀、福岡、東京と移りました。東京に行ったのは、小学校3年生、9歳頃で、それ以降は、東京ないし埼玉です。

（増田）

先生は、子どもの頃からものづくりがお好きだったようですね。

（橋本先生）

父親が、多分、必要に迫られてたと思いますけど、要するに子どもがたくさんいて家計が苦しかったから、なんでも自分で作らなきゃいけなかったんですよね。だから、私の周りにノコギリだとかノミだとかカンナだとか、そういう道具がいっぱい置いてあったんです。

また、9歳上の兄がそういうことを非常に丁寧にやる人で、私にもいろいろ教えてくれる、そういう家庭環境だったのです。ただ、やっぱり天性好きだったのでしょうかね。

（増田）

先生を紹介する記事で「大学生のときに家を建てた」ってあったんですけど、これは、好きというレベルを超えていると思いますが、どういう経緯で家を建てたのですか。

（橋本先生）

これまでに5軒建てました。最初は自分の家の建て増しで、高校生の時です。家っていうのは意外と簡単なんです。コンクリートで地回りを回したら、あとはその上に柱を載つけて、柱立てて、上に桁を渡して、屋根掛けて、筋交い張って、それだけの話です。

記事の家は、画家を父に持つ同級生から「父が、アトリエを建てたいから手伝う人を探している。」と聞いて、じゃあ、ちょっと行ってみましょうかと。鉄筋コンクリート30坪ですからね、結構でかいですよ。当時はホームセンターなんかありませんから、金物屋に行って、材木屋に行って、道具屋に行って、依頼主の画家と二人でコンクリートとやりました。

5軒目は、最初から最後まで全部1人で、約半年で建てました。頼むほうも頼むほうだけど、自分でもよく引き受けたと思います。

ラジオの組み立てもそうなんだけど、私は、働き始めると、飯を食うとか全然頭の中になくなっちゃうんです。

（増田）

バイクの改造なんかもそうなんですか。

（橋本先生）

バイクはもっとすごいですね（笑）。本当に二晩徹夜でやり続けたりもしました。14歳になった途端に原付免許を取って、単車を買って。それで、直したりなんかしてたんですけど、中学校2年生で、学校の昼休みに家に帰ってオートバイ直して、学校に戻ってとやっていた。学校では少し問題になっていたのを担任の先生が「何事も一生懸命なのは

良いこと」とかばってくれていたようです。当時、私は知らなかったですが（笑）。

（増田）

本当に、子どもの頃からものづくりの世界にいらしたのでですね。

通産省に入られたのは、やはりものづくりの支援をされたかったのですか。

（橋本先生）

いや、私は公務員になるつもりは全くありませんでした。公務員試験を受けたのは、卒業の時に自分がどのくらいの位置にいるかを知りたかったからです。そこそこの成績でした。

某民間会社に就職する予定で、誓約書まで出していたんです。そうしたら、通産省から電話がかかってきて、私の精密機械工学科の1年先輩の人から「おまえ、頼むから通産省に。入らなくていいから、とにかく面接だけ受けてくれ。1人呼んでこいって言われてんだ」と。（笑）

それでしょうがなく行っただけですよ。面接担当者が「おまえ、就職どうなってる？」って言うので、「この会社に就職するって誓約書まで出してます。」と答えると、「ああ、その会社だったら秘書課長を知っている」って。それで「今ここに橋本ってやつがいるんだけど、ちょっとこれ、通産省でもらうことにしたから。」って電話したんです。

私、入りますなんて言っていないじゃないですかと思うんですけど、どうせこっちの会社も、まあ面白そうだからぐらいのことだから、そこまで言ってくれる人がいるのなら、そっちのほうに行くのも、まあ人生かなと思ったのは確かですね。また、当時、アメリカに比べて圧倒的に負けていた日本の工作機械をなんとかしたいなど。ものづくりが好きですからね。というのもあって通産省に入りました。入って、「いや、おまえ、いいとこ来たぞ。こんなに面白い仕事をやらせてもらって給料までもらえるんだぞ。」と言われたのがものすごく印象に残っています。

（増田）

どのような部署を経験されたのですか。

（橋本先生）

最初は技術調査課です。県庁も同じだと思うけど、通産省っていうのは大体2年ごとにいろんなところを替わっていくんですよ。それで、私はどこの課にいるときも、「ああ、この課を替わりたくないな。なるだけこの課にいたいもんだな」と。本当に面白かったし、意義があったしね。毎日、ご承知のとおりですけど、大体終電では帰れませんからね。



インタビューに答えられる橋本先生

大体1週間に2〜3回は泊まってましたからね。予算のときは、今は全然違うみたいですけど、あの頃は本当に1週間ずっと泊まり込みで、昼ちょっと家に帰って、風呂入って着替えて、また通産省に戻ってたよね。本当に生きがいがあったし、面白かったしね。

（増田）

ジェットロ調査員として西ドイツに駐在されたこともあるのですね。

（橋本先生）

西ドイツ駐在は、人生の中で一番ハッピーな時代でした。33歳で副所長です。事務所のあったデュッセルドルフは、ヨーロッパの中心に位置していて、ある分野については全ヨーロッパをカバーしてたんです。今日はパリ、明日はウィーン、明後日はベルリンに出張ということもありました。丸3年いましたが、ここは本当にもうあと10年ぐらいいてもいいなと思いましたね。

（増田）

ドイツは、職人の国、マイスターの国ってイメージがあるんですけど、やはり中小企業が多い日本と似たようなところがあるんですか。

（橋本先生）

ドイツの中小企業は大きくなろうとしないんです。顔を覚えられる人数で、みんなで好きな仕事をやるんだっていうのが、ドイツの基本的な考え方なんです。中には、大きくなる会社もありますけど、基本的に日本みたいな3,000人とか1,000人とか、そういう会社はあんまりなくて、何万人という会社と、何十人という会社に分かれちゃってるんです。

数十人の会社でも技術力は非常に高く、何よりもプライドを持ってね。自分の仕事に本当に誇りを持ってますよ、ドイツの人たちは。

(増田)

日本に帰ってこられて、昭和 62 年に鑄鍛造品課長さんになられた。

(橋本先生)

そうです。私の人生を変えたのは鑄鍛造品課です。それまでは、たとえば再生可能エネルギー活用のためのサンシャイン計画を立ち上げるなど大企業相手の仕事为主でした。

一方、鑄鍛造品は地場産業です。普通の鑄物屋さんだと 50 人もいれば大きい方で、1 人 2 人でやっているところも結構あるんです。

大企業には通産省担当がいて呼ばなくたって来てくれますが、鑄物屋さんにはそうはいかない。20 人の会社から 1 人来たら生産能力は少なくとも 5%ダウンですよ。そういう小さな会社には、通産省のほうから出掛けるべきと考えて中小企業訪問を始めたのです。

普通、出張は 10 時頃お迎えの車が来てみたいなことなんですけど、私は、電車で行きました。午前中 2 工場、午後 3 工場。それを原則、木曜日、行けるときは行くというふうにしていました。

当時は恵比寿に住んでたから、東京駅 6 時発の新幹線にも乗れたし、羽田空港 6 時 20 分発の飛行機にも乗れたんです。それにオートバイがありました。

(増田)

100 キロ以内はみんなオートバイで行かれちゃう(笑)。

(橋本先生)

川口はもちろん、高崎、宇都宮、水戸、小田原ぐらいまでは全部オートバイです。100 キロ以上になるとお尻が痛くなっちゃう。

(増田)

でも、本省の課長さんが来たら中小企業さんはびっくりしちゃいますよね。

(橋本先生)

通産省の鑄物担当課長って、別に偉いわけではないし、何を知ってるってわけでもないのだけど、一応、偉いっていうことになってたりする。そうすると「うちは通産省の鑄鍛造品課長がわざわざ来てくれた。」と、元気が出ちゃうんですよ、社長が。

社長って孤独で、いろいろ悩んでること多いんです。従業員には相談できないし、金融機関に相談したら融資止められちゃうし(笑)、親会社に相談したら、「あ、この会社駄目かな」と思われるし、相談する相手がいないんです



インタビューの様子(修了生室にて)

よ。私が行くと相談みたいなことになるわけです。それで、頑張ってやりましょうって言うのと、頑張ってやるんです。そうするとね、飛べない距離を飛べるようになる人がいるんだよ。「課長さんが来て、話を聞いてもらって元気が出てきました。それで、やったらうまくいきました。」と、そういう手紙がいっぱいあるんです。段ボール箱 2, 3 個くらい。

(増田)

地方の中小企業にも行かれてますよね。

(橋本先生)

当時、依頼出張の制度があって、鑄物協会が地方で総会をやるから課長に来てもらいたいという申請があれば行けたんです。私はその申請があると、割としょっちゅう出掛けていました。その日、朝一番の電車で行って、総会のついでに鑄物屋さんを 3~5 社訪問していました。また、他の業種の会社を紹介してもらって行ったりもしていました。

そうするうち、通産省の偉い人に「橋本さんっていう鑄鍛造品課長が来てくれて、すごく褒めてもらったんですよ。」という企業の声が届くようになったんです。すると、その偉い人も「こいつ、何か知らないけど全国飛び回って、変に補助金なんか出すよりも、こいつに勝手にやらせてるほうが、もしかしたら通産省にとっていいかもしれない。」と思われたみたいです。

普通、鑄鍛造品課長の次は通商課長とか全然別の分野をやられるのですが、私は中小企業庁技術課長、企業立地課長という中小企業を訪問できるポストが続きました。通産省では絶対にはない人事です。

ただ、その後は局長クラスになっちゃうんでどうしょうかなって。そうしたら、埼玉大学の先生というポストがあるじゃないかと。

(増田)

籍は通産省にあって、埼玉大学に来られたんですね。

(橋本先生)

そうなんです。大学に来てみると留学生がかわいい。もともと人の面倒を見るのが大好きなので留学生担当に自動的になり、来日する留学生を空港まで迎えに行ったりもしました。教員の中には「できません」、「やりたくありません」とかいう人もいましたが、通産省にはそういう返事はないですからね。公務員で給料もらっているんですから。

私は、「予算がないからやれません」とか言わないので、大学から「あいつは便利だ」と思われたし、私もストレスがたまらなかった。通産省からすると局長クラスが企業訪問ばかりしていても困るとの思いもあったようで、通常は2年で通産省に戻るところをそのまま大学に残ることができました。

(増田)

留学生の面倒を相当見られたそうですね。

(橋本先生)

大学の敷地に留学生宿舎があって、騒いでも周辺の住民から苦情出ないから夜中の2時、3時までどんちゃん騒ぎをやったりしました。

また、警察や病院にも度々行きました。最近はあまりないみたいだけど10年ぐらい前までは1年おきぐらいには事件が起こってた。その都度、留学生の言い分を聞いた、もめごとの仲裁をしたりしていました。大変な面もあったけど、本当に楽しい思い出です。

留学生には、勉強してもらうことも大切なんだけど、それ以上に日本が好きになって、日本にいい印象をもって帰ってもらうことのほうが、私は大切だと思って、その方針でやってきました。

(増田)

それぞれの国に帰れば重要なポストに就くことが多い留学生に、日本のファンが1人でも増えてくれると良いですね。

ところで、大学でも企業訪問を続けてらっしゃるのですか。

(橋本先生)

今でもやっています。今、4,160番目かな。私の自慢はね、全て記録してることです。

通産省にいた6年間で1,500企業行っただけですね。大学に来てから少しペースが落ちたのですが、約30年

で3,000企業ぐらい行きました。企業を訪問して話をお聞きすると本当に面白いし発見がありますね。

(稲葉)

埼玉県の産業労働部でも全職員が1人あたり10社訪問するという取り組みをしたことがあります。私は観光課長だったので小さい観光業者などを回ったりもしたけど、面白いですよね。

(橋本先生)

埼玉は、本当に実力ある企業がいっぱい集まっているから本当に面白いです。学生を埼玉のひな人形メーカーに連れて行ったこともあります。みんな喜んでいました。

ただ、コロナでばったり受けてくれなくなっちゃって、訪問先を見つけるのも難しくなっていました。

(増田)

先生、最後に国内同窓会に何かメッセージをいただけますか。

(橋本先生)

吉村先生の理想というのは、ハーバード・ケネディスクールなんです。ハーバード・ケネディスクールっていうのは、世界の有名人っていうか、これから偉くなるような人たちが集まって、そこで勉強する。それはとても大切なんだけど、もっと大切なのはそれぞれが国に帰った後、交流を保つこと。例えばイギリスがブレグジットしようとしていた時、イギリス経済がどうなると思うか、イギリスの議会内がどういう状況になっているんだというようなことをイギリス、フランス、アメリカの友人間でアンオフィシャルな意見交流をできる。それが大使館同士のオフィシャルな話し合いより、よほど有効に違いない、と。ハーバードはそういうネットワークができています。だから、日本でもそういうものをつくりましょうよというのが、吉村先生の願いなんです。

そういうネットワークをやっぱ日本人の仲間でもやってほしいと私は思います。県同士の対立みたいなものを融合させていく。それには同窓会のネットワークがやっぱ有効ですね。今、幸いにしてZoomのおかげで従来よりもはるかにネットワークをつくりやすくなっています。是非、同窓会の皆さんで定期的に話をする機会を作っていただければと思います。

(増田)

長い時間、本当にありがとうございました。

(聞き手：稲葉会長、若山幹事、増田幹事)

報告 | 社会科見学会～埼玉県産業技術総合センターを視察しました

今回の社会科見学会の訪問先は、埼玉県の中小製造業を技術的な側面から支援している埼玉県産業技術総合センターです。人工気象室や大型X線CT、3Dプリンターなど同センターの特徴的な機器・設備を視察しました。

2024年6月24日に埼玉県産業技術総合センター（以下SAITEC）の社会科見学会を開催しました。これまでの見学会で最多の29名の参加となり、在學生も6名参加されました。

SAITECは、埼玉県の中小製造業の研究開発から生産、製品検査までの各種工程の技術支援を行う公設試験研究機関です。川口市の本所、熊谷市の北部研究所に併せて118名の所員が在籍され、中小企業の技術支援、研究支援、事業化支援を多角的に実施されています。

本所で実施した見学会では、センターの概要説明の後、人工気象室、大型X線CT、3Dプリンター、AI・IoTラボを見学しました。人工気象室は過酷な気象条件の中で使用される製品の耐久性評価などに役立つ機器です。実際に零下20度の体験を見学者で行い、非常に寒かったですが貴重な体験となりました。大型X線CTは、内部測定が難しい金属製品を強力なX線で断層撮影して製品内部の欠陥を見つけたり、製品の3次元データを取得できることが画面でわかりました。3Dプリンターは硬さや物性の異なる製品を試作でき、実際に試作さ



人工気象室で零下20度を体験

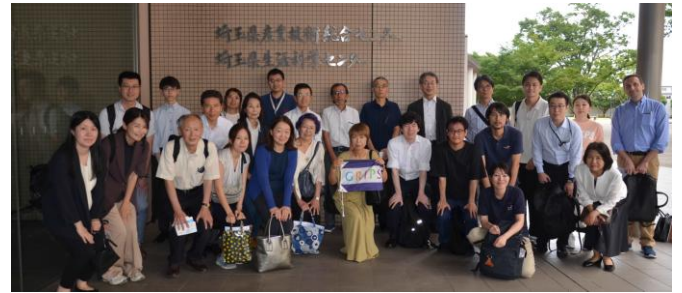
れた製品を手に取り、その精密さに驚きました。AI・IoTラボでは、中小企業でも導入可能なAI・IoT機器について動作モデルを見ながら説明を受けました。



3Dプリンターの試作品を熱心に見学

見学中、参加者から熱心な質問があり、皆さんの知識向上に大いに役立ちました。また通常触れることができない試作品に触れたり、6月の蒸し暑い日に真冬以上の寒さを体感するなど楽しい見学会となりました。見学会終了後、近くの駅で有志の懇親会を行い、参加された修了生・在學生とGRIPSの先生・職員の方との交流を深めることができました。

見学会に参加されましたGRIPS同窓会関係者の皆様、ありがとうございました。（中村記）



お知らせ | 積極的な御利用を！修了生室が設置されました

政策研究大学院大学4階に同窓会のための修了生室が設置されました。打ち合わせテーブル、応接セット、本棚、ホワイトボード、PCモニターなどもあり、8～10名程度の会議や交流のための催し、作業などに利用可能です。

ご利用の際は、教育支援課スチューデントオフィス同窓会担当 (alumni-ml@grips.ac.jp) に事前連絡の上、当日、防災管理センターにて受付へ記帳、同窓会担当から鍵を受け取り開錠。修了生室内で入退室記録を付け、利用終了後は施錠の上、同担当へ鍵を返却してください。

六本木という至便の場所に設置された修了生室。皆さんで積極的に利用しましょう！



入口



室内の様子

2024 年度国内同窓会開催報告 総会・懇親会を開催しました！

2024 年度同窓会が 2024 年 11 月 23 日に開催されました。参加者数は会場参加が修了生 45 名、現役院生 2 名、教職員 16 名、オンライン参加が修了生 21 名、現役院生 3 名、教職員 4 名で、計 91 名となりました。

第一部の総会は、想海楼ホールにて藤井副会長司会のもと、稲葉会長の開会挨拶、松田幹事による国内同窓会の活動報告が行われました。



次いで大田弘子学長から御挨拶と「日本の政策決定の問題点～規制改革を中心に～」と題する講話をいただきました。経済財政担当大臣や内閣府規制改革会議議長などの要職で日本の政策決定に関わってこられた大田学長ならではの興味深いお話を伺うことができました。

修了生報告は香川県の吉川健司政策部文化芸術局長と松木正一郎下田市長のお 2 人からです。吉川局長からは来年 6 回目の開催となる瀬戸内国際芸術祭について、始まりの経緯から現状と課題、効果などのお話をいただきました。松木市長からは立候補された経緯や首長のやりがい、苦労話などを

伺うことができました。

続いて来年度に新設される 2 つのコース（文化産業・地域創造コース、地域創造・金融コース）についての紹介が、それぞれの担当教授の田淵先生、竹ヶ原先生からあり、道下理事からは今年度開設された新修了生プラットホーム等の案内がありました。最後に記念撮影をして第一部は終了となりました。



第二部の懇親会、若山幹事の司会により横道先生の開会挨拶、稲葉会長の乾杯で始った懇談は、修了生が持ち寄った各地の地酒や銘菓を楽しみながら旧交を温める場となりました。また、2014 年度修了生が懇親会版の修了生報告(?)を披露する時間が設けられるなど、楽しく有意義な会となりました。

最後は細江先生から締めの挨拶をいただき、散会となりました。（増田記）

同窓会各支部からの開催報告

○茨城県支部

2024 年 7 月 12 日に横道先生、高田先生をお招きして茨城県支部の立ち上げ式を行いました。修了生 10 名が参加して近況や GRIPS での思い出などを語り合い、修了生の皆様の GRIPS 愛を共有することができました。今後も定期的に同窓会を開き、同窓生同士の交流の機会を設けていきたいと考えています。

（大和田康洋・2019 年 GRIPS 修了）



○インフラ政策コース支部

学位授与式の日（2024/03/19）に、2019 年以来 5 年ぶりに「成果報告会」として、OB/OG、派遣先企業の皆様をお招きして、卒業生の 1 年間の研究成果の発表および懇親会を実施しました。（坂下文規・2009 年 GRIPS 修了）

○東京都支部

東京都支部は 2023 年 8 月に発足し、2 年目となりました、現在は 22 名が登録しています。

2024 年 2 月に吉野先生をお迎えし、第 2 回の懇親会を実施しました。

今年 1 月には新年会を開催。新しい顔ぶれも増え、交流が深まっています。（巻嶋國雄・2006 年 GRIPS 修了）



○香川県支部

2024 年 7 月に、本県の人材育成研修の講師として来県されました辻琢也教授（現・一橋大学大学院法学研究科教授）を囲み、香川県職員の GRIPS 修了生を中心とした同窓会を、1 年ぶりに高松市内で開催しました。

コロナ禍を除き、毎年度の恒例行事になりつつある本会。今年も辻教授に師事しました十数名の職員が集結し、当時の思い出に花を咲かせました。

（豊嶋泰行・2017 年 GRIPS 修了）



○埼玉県支部

2024 年 9 月 18 日に大山先生、横道先生、高田先生、GRIPS 職員の皆様をお招きし、昨年に引き続き同窓会を開催しました。在学時代が昭和の修了生から令和の現役生まで、幅広い埼玉県職員関係者が参加し、当時の思い出を語り合うなど、大いに盛り上がった同窓会となりました。

こうした幅広い同窓会ネットワークを大切に、今後も交流の機会の場を設けていきたいと考えています。

（坂井智彦・2020 年 GRIPS 修了）



修了生紹介

政策の現場から No.8

地方分権の最前線の仕事に携わって

杉山亮一 さん(地域政策プログラム 2001 年修了)

広島県総務局長

今回の修了生紹介は、広島県総務局長の杉山亮一さんです。広島県を市町村への権限移譲で全国トップレベルにされるなど、地方分権の最前線での業務経験や GRIPS での経験・ネットワークを業務に活かされたことなどについて御寄稿いただきました。

私は、2001 年 3 月に地域政策プログラムを修了した GRIPS の第 1 期生です。当時はまだ現在の六本木キャンパスが完成しておらず、新宿若松町キャンパスに通いました。修了後、幾度となく現在の前衛的で立派な六本木キャンパスを訪れる機会に恵まれ、このキャンパスで学ぶ後輩たちを羨ましく思いつつも、全く異なる素朴な下町の雰囲気を持つ新宿若松町キャンパスは、今では思い出深き場所と言える存在になっています。

GRIPS 修了後は、比較的短い異動サイクルで数多くの仕事を経験しましたが、その中で最も印象深いのは、地方分権に関する仕事です。

私が最初に地方分権に関わることとなったのは、県の行政管理室での「分権改革推進計画」の策定(2004 年)でした。市町村合併を経て、住民に身近な事務は基本的に市町村が担うべきという計画であり、合併した市町村の強化の側面とともに県の行政改革の意味合いも併せ持ったものでした。そして、その翌年には、新たに設置された権限移譲推進室に異動となり、その計画に基づいて具体的な権限移譲を進める実務を担当しました。市町村への



GRIPS 謝恩会(2001 年)にて、筆者左端

の権限移譲は、それまでの県と市町村との関係性を大きく変えることとなる非常に困難な一大プロジェクトでしたが、平成の大合併により 86 市町村が 23 市町と

合併を進めた広島県は、市町村への権限移譲についても、全国トップレベルの権限移譲を行うことができました。さらに、その権限移譲推進室での 2 年間の経験を経て、2007 年 4 月には内閣府に新設された地方分権改革推進委員会事務局に出向し、いわゆる「第 2 次地方分権改革」に携わることとなりました。この委員会が目指していたものの大きな柱の一つが市町村への権限移譲であり、広島県での実績をベースにしながら全国に広げていくこととなり、2008 年 5 月に「第 1 次勧告～生活者の視点に立つ「地方政府」の確立～」というかたちで結実した際には、本当に感慨深く思いました。

このように立場を変えながらも、まさに地方分権の最前線で仕事に携わっていくに当たっては、GRIPS で学んだ

ことが大きな支えとなりました。その一つが、「物事を見る視点の広がり」と深み」だと思っています。それまでの私は、目先の課題に対処することだけに追われていたが、GRIPS での講義や、当時ゼミでお世話になった大田弘子現学長をはじめとする先生方、同級生との議論などを通じて、物事の表面的な部分にとらわれず、長期的かつ多角的に政策の意義や方向性を見据える視座を養えたことが、本当に役立ったと思っています。

また、GRIPS でお世話になった先生方とのつながりも私にとって大きな力となりました。地方分権の仕事を進める中で、GRIPS でお世話になった横道先生、井川先生、辻先生には幾度となくご助言をいただきました。井川先生には市町村への権限移譲に関する法的な課題についてご指導いただくとともに、このテーマで GRIPS のオムニバス講義の講師として合計 8 回もお招きいただき、貴重な経験を積ませていただきました。また、横道先生、辻先生には、広島県の審議会等の委員や各種講師をお引き受けいただくとともに、広島に来られた際には、食事をしながら様々なご助言等をいただくなど、修了後四半世紀経った今でもお世話に

なり続けています。また、先生方だけでなく、同期等の友人から他の自治体のことを聞いたり、出張の際に飲みに行き意見交換するなど、その人的ネットワークの貴重さは計り知れないものがあると感じています。私の県職員人生は残りわずかとなりましたが、残された期間、そして第二の人生においても、GRIPS で培った力や人的ネットワークを活かしながら、さらなる挑戦に取り組んでいきたいと思っています。



略歴

1990年	広島県職員採用
	内閣府地方分権改革推進委員会事務局出向などを経て
2014年	総務局経営企画チーム政策監(経営改革担当)
2015年	健康福祉局働く女性応援課長
2017年	病院事業局事務部長
2020年	総務局行政経営部長
2021年	総務局経営戦略部長
2022年	地域政策局長
2024年	総務局長

母校の動き

2024年9月秋季学位記授与式举行

2024年9月11日、GRIPS創設以来24回目の秋季学位記授与式を举行、世界46ヶ国からの修了生148名（修士140名、博士8名）に学位が授与されました。人事院総裁 川本裕子様による記念講演を賜り、修了生代表として Maritime Safety and Security Policy Program の仲田信之介さん（海上保安庁）が答辞を述べました。



新しい修了生交流システム導入のお知らせ

これまでの同窓会データベースに替わる『修了生交流システム』を新たに導入し、大学より皆さまへ登録用のご招待メールをお送りしております。該当のメールを受領されていない方は、お手数ですが、ご自身の①お名前、②修了プログラム名、③修了年を明記の上、下記担当までご連絡ください。【修了生担当：alumni-ml@grips.ac.jp】

[GRIPS Alumni Platform](#) 同窓会 | 政策研究大学院大学

GRIPS 修了生メールアカウント廃止のお知らせ

これまで GRIPS のメールアドレス (@grips.ac.jp) は、修了後も引き続き修了生の皆さまにお使いいただいていたのですが、昨年11月の国内同窓会やメール等での周知の通り、2026年1月末日を以って修了生の GRIPS メールアカウントを廃止することといたしました。何かご不明点等ございましたら、下記担当宛にお問い合わせください。

【修了生担当：alumni-ml@grips.ac.jp】

2つの新しいコースが始まります

2025年度より、修士課程「公共政策プログラム」に新しく2つのコースが加わります。

ぜひ、勤務先等で広くご案内ください。

●地域創造・金融コース ●文化産業・地域創造コース



地域創造・金融コース
政策研究大学院大学
(GRIPS)



文化産業・地域創造コース
政策研究大学院大学
(GRIPS)

大学からのご案内

GRIPS 基金ご協力のお願い

GRIPSには、ミッドキャリアの行政官を中心に、日本を含む世界60以上の国と地域から学生が集まっており、世界で活躍できる指導者・政策プロフェッショナルの養成に努めています。皆様から募った基金を奨学金として、未来のリーダーを支援することにより、日本及び世界の持続的発展に繋がること、また、研究資金として、本学の政策研究活動を支えることにより、この分野での世界における本学ひいては日本のプレゼンスの向上に繋がることが期待されます。

基金へのご寄付は、銀行振込・クレジットカード決済にて受け付けております。

[ご寄付・ご支援の方法](#) | [政策研究大学院大学 \(GRIPS\)](#)



GRIPS Newsletterのご案内

広報担当では修了生の皆様に、GRIPS Newsletter を G-way 登録のアドレスへ配信しています。新規登録・配信先アドレス変更・登録解除をご希望の際はそれぞれ以下のQRコードからお手続きくださいますようお願いいたします。

(いずれも簡単な操作で完了します)



新規登録



アドレス変更



配信登録解除

◆広報物 | 政策研究大学院大学 (GRIPS)

■■編集後記■■■

今号から同窓会報の担当となりました。初めての編集作業でしたが、鈴木前幹事の丁寧な引継、同窓会役員の皆様や国内同窓会のお世話をしてくださる GRIPS の先生方・スチューデントオフィスの皆様方の御支援・御協力のおかげで、無事、発行することができました。

恩師インタビューでは、橋本先生の多彩な御経験を巧みな話術で伺うことができました。紙幅の関係で一部割愛せざるを得ませんでしたが、愉快的エピソード満載のとても楽しいインタビューでした。

修了生紹介は、広島県の杉山総務局長から GRIPS の経験・人脈を実務の場に活かし、大きな成果をあげられたことがわかる、大変素晴らしい寄稿文をいただきました。

支部開催報告は5団体からいただきましたが、このような活動がより多くの地域で行われるよう期待しています。今後も会員の皆様の御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

(増田文之 同窓会幹事・GSPS1991年修了)